

## 新たな魅力を創造するためのプロジェクトが始動！

### 一色町が「佐久島地区活性化計画」を作成

#### ◇ 静かで穏やかな佐久島

一色町の佐久島は、一色港から町営の定期船で30分ほどの、波静かな三河湾の真ん中にあり、周囲11.6km、面積181haのなだらかな地形の島です。平成21年1月1日現在、島民303人143世帯の多くがお年寄り世帯で、刺し網漁やなまこ漁、アサリ漁などの零細な漁業と民宿等の経営が主な産業となっています。島には信号やコンビニもなく、静かで穏やかな生活がめんめんと営まれております。



波静かな三河湾に浮かぶ佐久島

平成21年1月6日には、人の営みが作った豊かな自然と景観をたもつ「黒壁続く半農半漁の島」として、「にほんの里100選」の一つに佐久島が選ばれています。これは、すこやかで美しい里を未来へつなぐことを目的に、朝日新聞と(財)森林文化協会が主催し、映画監督の山田洋次氏等が選定委員となって4,474件の中から選定されたものです。

その佐久島で、新たな魅力を創造するためのプロジェクトが動き始めました。

#### ◇ 「佐久島地区活性化計画」

一色町は、平成21年1月26日、佐久島の豊かな自然と地域資源を活かし、都市住民との交流の促進による地域活性化を図ることを目的とした「佐久島地区活性化計画」を作成し、この計画のもと今後4年間に実施していく事業の概要とともに一色町ホームページで公表しました。この計画は、「農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律」に基づいて作成されたものですが、その背景には、青年層が島外に働く場を求めて離島するなどして進展した人口減少と高齢化の問題、島民の半数近くが従事する漁業

の不振と観光客受け入れの要である民宿・旅館の減少による観光の不振という島の二大産業の衰退化問題など佐久島の抱える深刻な現状がありました。

「主要産業の衰退」と「人口減少と高齢化」は相互に悪循環をもたらし、かつて30軒近くあった民宿・旅館は10軒程に減少し、昭和22年頃には1,600人程あった人口は300人程までに減少してしまいました。また、65歳以上の高齢者は人口の半数に迫ろうとしています。

そして、このような状況を打破していくために「佐久島地区活性化計画」で掲げた課題は、交流人口の増加を図ることにより島内で働く場を確保し定住人口を増加させるということでした。具体的な数値目標としては、島への渡船利用者数を12万人（平成19年度）から14万人（平成24年度）まで増加させるというものです。

#### ◇ 活性化計画の3本柱

「佐久島地区活性化計画」では、その目標を達成するための手法として、国から「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」により助成を受けて、平成24年度までに、船舶離発着施設、農林漁業体験施設、自然環境保全・活用施設を整備するとしています。

##### <船舶離発着施設>

佐久島の玄関口となる一色港の渡船場が、現在、潮の干満により2カ所の発着所を使い分けている河口の奥から、河口近くの「一色さかな広場」に隣接した場所へ移転され、駐車場、待合所、屋根付き通路などが整備されます。この移転で25分から30分かかった渡航時間が10分程度短縮され、駐車場の問題も解消でき、年間60万人を超える来客のある「一色さかな広場」との相乗効果で佐久島への観光客の誘引効果が期待されます。

##### <農林漁業体験施設>

木造平屋建て40㎡のラウベ10棟、70㎡の農園10区画、管理棟などの施設がある滞在型農業体験施設（クラインガルテン）が整備されます。クラインガルテンは全国各地で整備されて人気がありますが、海を渡って船で行くものは全国でも初めてであり、その話題性から佐久島への注目度が高まり、



「クラインガルテン」イメージ図

交流人口の増加が期待されます。

#### <自然環境保全・活用施設>

穏やかな三河湾に浮かぶ佐久島の美しい海岸を周遊する散策路や、島に残る八十八弘法を巡る散策路が整備され、四季折々の島の自然や風物との触れあいを求めて訪れる都市間交流人口の増加が期待されます。

#### ◇「三河・佐久島アートプラン21」との相乗効果

現在、佐久島では、「祭りとアートに出会う島」をテーマにした企画「三河・佐久島アートプラン21」が実施されています。これは、島のお祭りや行事に併せ、年間を通してアーティストが美術展やワークショップを開催するというものです。「島がアートを引っ張り、アートが島を引っばる」をキーワードに、島とアートがインスピレーション



屋外アート「カモメの駐車場」

やエネルギーを与え合い、島にある地域資源の潜在的な魅力を掘り起こし、島の人々の心を活性化させるとともに、島外に島の魅力を発信していこうというものです。このプランによる島の人々とアーティストとの地道な活動により、佐久島が人びとの交流の場として注目されるようになってきました。

この「三河・佐久島アートプラン21」と「佐久島地区活性化計画」が融合することで生まれる相乗効果が大いに期待できます。

#### ◇Iターン・Uターンへの期待

最近、佐久島に新たな動きが芽生えてきました。佐久島の魅力が、マスコミなどで度々紹介されるようになり、観光など一時的な交流で佐久島を訪れる人が増えてきたこととは別に、新たな生活の場として佐久島に移住してくる人が現れだしたのです。現在、いわゆるIターンで15名、Uターンで24名の人たちが生活拠点を佐久島に移し、島民の仲間入りをしています。定住を決意する決め手となったのは、島の豊かな自然ではなく、「人のぬくもり」を感じたことだと、皆さん異口同音に言っているとのこと。これまでの地道

な活動が、島の人々を輝かせ、訪れる人を包み込む豊かな心を育んだのかもしれない。

「佐久島地区活性化計画」の実現で島の魅力と触れ合う人の数が増え、そのことが、必ずや島の定住人口増加にも結びつくこととなりましょう。

佐久島の活性化は、島民の大きな願いです。この願いは、島民の努力だけで叶えられるものではありません。島の活性化に対する一色町役場の熱い想いを「佐久島地区活性化計画」のようなかたちで着実に具現化し、その努力を継続することが不可欠なことと思われ  
ます。これを機に、島での活動と交流が益々盛んになることが期待されます。

穏やかで控えめだけど、今、佐久島はあつい！